【片島地区　意見交換会】

宿毛市市街地における海岸堤防の地震津波対策意見交換会　議事メモ

日　時：平成29年1月21日（土）14：00～16：10

場　所：片島公民館　2F

出席者：片島地区住民 27 名

○県宿毛事務所より説明（別添資料）

宿毛市市街地における海岸堤防の地震津波対策（平成28年度説明会資料）

○質疑応答

Q1：紹介のあった製品（超長径間フラップゲート）は、使用することは可能ですか。

県：日立造船の開発により、製品として確立されているので使用することは可能です。

Q2：フラップゲートの使用により、陸こうは不要となりますか。

県：現在、陸こうを設置している箇所は必要となります。

Q3：フラップゲートを使用するなら、陸こうを更に設置する必要がありますか。

　　また、堤防のかさ上げ工事はフラップゲートを設置するだけ（既設堤防の工事は必要無

　　い？）で対応は可能ですか。

県：フラップゲート設置にはカウンターの設置が必要です。また、ゲートの基礎も必要なため、既設の堤防の工事が必要となります。ただし、見た目（景観・高さ）は現状と変わりません。

　　フラップゲートは最新の技術であり、市場にあまり出回っていませんが、今後出まわることが考えられるので、紹介させてもらいました。

Q4：現在、使っている場所や使用予定の場所はありますか。

県：超長径間フラップゲートについては現在、全国でも事例はありません。ただし、短い径間のフラップゲートについては県外で使用事例があります。

　　また、超長径間フラップゲートは価格が高いため、どこまで対応できるのかはわかりません。

　　超長径間フラップゲートで全て対応できると良いですが、出始めの技術のため高額であり、全ての対応は困難と思われます。設置箇所を限定して使用するようになると思われます。

Q5：以前の説明会の話で、4ｍ50cm位の高さで囲まれる堤防ができるとの認識だったため、今日の話が90～100cm程度の高さとのことで安心しています。

　　しかし、この堤防は昭和南海程度の地震には対応出来るとのことですが、今はそれ以上の大きな地震が来ることも予想されています。そのため、そのような高さの堤防では役に立たないのではないかと思います。また、対応出来ると言っていた規模の地震についても本当に対応出来るのかは疑問です。

　　莫大な予算を使ってやる事業なので、そこに予算を使うのなら避難道や避難場所の整備等にお金を使ってもらいたいです。

県：あくまでも想定の話でしかありませんが、今ある情報・技術を使って計算上壊れることなく地震に対応できる構造のものを設計します。

　　また、避難道や避難場所の整備に予算を使ってほしいとのことも分かりますが、（県土木部としては）対応が困難なため、自分達で対応可能な範囲で出来ることをしています。

Q6：どれくらいのお金がかかりますか。

県：先日新聞で報道もありましたが、概算で海岸の堤防だけで50億程度と考えられます。

Q7：L1高さまで嵩上げするとなるとどの程度の金額になりますか。

県：計算していませんが、数倍の金額になると思われます。

Q8：地震が来たときに、復興するとなるとお金もかかる。

　　復興で莫大なお金がかかるので、そのことも考えて対策を考えるべきでないですか。

　　他に良い策があるのではないですか。

県：今回、長期浸水対策ではありますが、復興を考えた時に海水を止めないと復興は出来ません。そのため、今回の事業で海水の入ってこない高さまでは守ろうと考えました。もし、何もしなければ、満潮の度に海水が入ってきて、中が渇かず復興が進みません。

Q9：膨大なお金がかかりますが、他に出来ることがあるのではないですか。

県：あくまでも、自分達で対応が可能な中で対策を考えて今回の事業を提案しています。

　　高台移転や避難道の整備等、どうしても（県土木部では）対応は困難なため、自分達が事業を提案することはできません。

意見：東日本の震災で感じたことですが、震災後、自分の家に帰りたくても帰れないという事態が何年も続いていました。また、場所によっては、住むことも禁じられた所もありました。自分は震災後も片島で暮らしたいと思っています。今回の堤防のかさ上げが復興に有効であるならば、是非やってもらいたいし、事業にも賛成です。

Q10：堤防の大型化に伴い影響を受ける所とは、話し合いは済んでいますか。

県：宿毛湾漁協や管理組合。消防については全分団と話し合いを行っています。消防団では、片島について陸こうの設置希望箇所も聞き取りをしています。漁協組合については消防団の設置希望箇所でまかなえると考えています。また燃油供給をされている会社とも話し合いを行い、消防団の希望箇所と同様で考えています。

意見：補足として、フラップゲートについては技術としてあるとの話でしたが、東北の防潮堤の際も話として出てはいたが、最終的には技術が進んでいなかったことと、お金がすごく高い技術であることから案だけ出て、実現はしていないというのが状況です。

県：そのような実態もありましたが、日立造船というメーカーが実験を繰り返し、現在製品化をしています。

Q11：しかし、この製品が片島をぐるっと囲む形で設置できるかというと無理ではないですか。

県：現在、コストが非常に高い状況ですが、技術が進むにつれコストも低下していくことが考えられます。

意見：高さを変えない案を考えてくれているのには感謝しますが、実際に「これが出来るから賛成。」ということには今の段階では出来ません。

県：景観については、以前より意見をいただいていたので考慮出来るようにしていきたいです。

Q12：予算について、高知県の方に問い合わせをしたところ50億というのは、耐震化をしない場合で、耐震化をした場合は100億だったと思いますが。

県：現在、新聞報道で２回ほど出ていましたが、最初は概算の工事費で100億という数字が出ていました。しかし、基本設計が完了していない状況での金額でした。その後、基本設計が完了し、液状化対策の矢板等の必要がない箇所が分かり、金額が減額となり、50億となりました。

Q13：片島が長期浸水対策をしても浸水期間は2週間程度しか期間が短くならず、そのメリットが分かりません。費用対効果の調査はどのように行っているのか教えて下さい。

県：片島地区だけを長期浸水対策するという考えでなく、宿毛市全体を考えると1月ほど変わってきます。

　　費用対効果については、経済圏を１日でも早く復興するということで効果は出てくると思いますが、計算した結果はありません。

意見：東北に行った際、１秒でも時間が稼げるだけで、助かった命が多くあったと聞いた。人の命の問題をB/C（費用対効果）と言われるのは心外です。

　　また、この事業のお金を避難道に使う事はできないはず。この事業をしないから、避難道が出来るかというとそんなことはないはずです。

　　この事業の施工により復興の時間が短縮することで、復興にかかる費用も少なくなると思います。

意見：堤防が高くなることで考えられる日常的な危険が増えるという事も考慮して対策を考えていく必要があると思います。

意見：県の方は今の案が最良であると考えて説明しています。説明会も何度か実施しているが関心も低いように思いますが、その中で区民の判断を決めないといけないです。反対の意見があるのも分かりますが、県に意見するのではなく地域住民に事業について理解が得られ、地域住民の関心が深まるように意見を広めていくのが良いのではないかと思います。

Q14：スケジュール的にいつまでを目途に意見の集約を行わなければならないですか。

県：ただちにということではありませんが1～2年程度には決めてもらいたいです。

意見：地震が発生したら、逃げるというのは分かりますし、そう指導もしていますが、どうしても海を見に行く人はいます。しかし、海が見えていることで危険を感じることもあると思います。なので、予算がついたならせめて、子ども達のいる小学校の前等は海が見えて危険がよく伝わるように、優先してフラップゲートの設置を検討してもらいたいです。

県：わかりました。

Q15：引き波の際、片島にゴミが集まりゴミの山になるように思いますが、どうですか。

県　：地盤の高さでは、片島はそれほど低いわけではないのでそんなこともないと思います。また、片島から出ていく分もあるので、何とも言えません。

Q16：地盤沈下の沈下量は計算で出したものですか。

県　：シミュレーションによる計算結果から、一番下がる所で2.4ｍです。ただし均一に2.4.ｍというわけでなく、一番下がる所で2.4ｍで宿毛市全体は2ｍ以上は下がります。

Q17：看板等にある海抜○ｍはどういう高さ（意味）ですか。

県　：東京湾の平均潮位から考えて計算しています。